

子育て支援の推進・保育料について

アナ： 「市長が語る 2017 三島」第2回の今日は、「子育て支援の推進」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 三島市の平成28年中に生まれた赤ちゃんの数、出生数が、前年より増加したようです。

市長： そうなんです。たいへん嬉しいニュースです。5年前の平成23年中の出生数は913人でしたが、平成27年には791人まで減少しておりまして、5年間で122人の減少となっていました。しかし、平成28年、昨年の出生数は819人と増加に転じまして、前年と比べると28人の増加となったところです。

アナ： それは、明るいニュースですね。この傾向が今年も続くことを願いたいですね。

市長： そうですね。三島市では、これまで、子ども医療費の中学生までの無料化や、「子育て世代包括支援センター」を県内では先駆けて設置し、さらには、「子どもは地域の宝事業」をはじめとする数々の子育て支援事業に取り組んでいますが、これらの事業が、若い世代に受け入れられている結果だと考えております。

また、まち全体で子どもやその家庭を見守り、支えていく風土が醸成されてきていることもその一つであると感じているところであります。

アナ： 子どもをもつお父さんお母さんの子育て支援に寄せる期待は、たいへん大きいと思います。三島市では、子どもを持つ家庭に寄り添った、三島ならではの事業が数多く展開されているのです。

市長： 昨年度から3ヶ月に1回開催しています「ようこそ三島で子育て応援サロン」は、出産して間もない方や、転入したばかりの未就園児のお子さまがいらっしゃる方を対象にしているのですが、三島の子育て情報をご案内したり、ママたちの交流の場として、多くの親子に参加していただいております。参加された方の中で隣りになった方が偶然、同じ新潟から転入したということがわかり、不安が解消され、三島での子育てが楽しみになったというお母さんもいらっしゃったようです。

また、双子のお子さんのいるご家庭や2歳未満の年子のお子さんのお子さんのいるご家庭に保育士が訪問して子育てをサポートする「みしまめ育児サポーター派遣事業」もたいへん好評です。祖父母が双方とも遠方である利用者の方からは、「身近で子どもの成長を見守ってくれる貴重な存在になっている」という感想もいただいております。

アナ： 三島市が、様々な視点で子どもや子育て家庭を応援していることが伝わってきますね。

次に、三島市の待機児童の状況と、対策について教えていただけますか。

市長： 三島市では、これまで年度当初に待機児童が発生することはありませんでしたが、働かれる女性が増加したことで、保育園を希望される方も年々増加しており、平成 28 年度当初には 14 人の待機児童が発生し、平成 29 年 1 月時点では 33 人となっています。

この待機児童を解消するため、この 4 月から、民間の認可保育園 1 園と小規模保育事業 2 園を新規に開園し、また、民間の保育園 1 園を定員増とすることにより、合計で 128 名の保育定員を増やしました。さらに、来年度の平成 30 年度には、民間幼稚園の認定こども園化も予定しており、さらに定員が 81 名増えますので、本年度と来年度で合計 209 名の保育定員を増やしてまいります。

アナ： 209 人も定員が増えるのですね。待機児童解消に大いに期待しています。それから、三島市は保育料が安いとお伺いしておりますが、幼稚園、保育園の保育料についても教えてください。

市長： 三島市では、幼稚園と保育園の保育料を、国が定める額から、平均して約 4 割減額しております。県内でもトップクラスの安さとなっています。

さらに、平成 29 年度からは、保育園保育料と同様に、公立幼稚園の保育料についても、国の定める世帯の年収制限や、兄弟の年齢制限を撤廃して、生計を同一にしているご家庭内の、2 人目のお子様を半額、3 人目を無料といたします。

民間の幼稚園についても、就園奨励費という保育料の助成を、兄弟の年齢制限を撤廃して算定しますので、平成 29 年度からは、公私幼稚園、保育園に通われるすべてのご家庭の経済的な負担が軽減されることとなります。

アナ： それは嬉しいですね。このような保育料軽減のサービスは、お子様が 2 人以上いるご家庭には心強いと思います。

市長： ありがとうございます。「三島で子育てをしたい」という若い世代が増え、三島のまちを、子どもを 2 人、3 人と連れて歩いているご家族を多くみることができるよう、今後もさらに、子育て支援を進めてまいります。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。